

## 国際化学肥料ニュース（2017年7月）

### 肥料業界の2017年7月動態

- \* 7月に入っても尿素の国際市場の不振が続いている。主な理由は二つある。一つはアメリカ産廉価の尿素輸出である。6月には30万トンのアメリカ産尿素がメキシコとチリに輸出された。7月も同量以上の尿素が南米に輸出される予定である。二つ目はインドの尿素需要不振で、輸入量が減った。従って、7～月の尿素国際価格がFOB180～190ドルに低迷するだろう。
- \* 中国と主要加里肥料メーカーとの2017年塩化加里輸入基本契約が7月中に締結する見通しとなる。CFR価格が昨年より約10ドル／トン上るとの予測である。一方、インドと主要加里肥料メーカーとの2016～2017年度塩化加里輸入基本契約が6月30日に終了したが、2017～2018年度の塩化加里輸入基本契約の締結に時間がかかりそうである。理由としてはインドが中国と同様な待遇を要求して、割高の価格を拒否する姿勢を取っている。
- \* アメリカのMosaic社はCF Industries社とアンモニアの長期購入契約を締結した。その内容はMosaic社がりん安の原料として、毎年CF Industries社から54.5～72.5万トンアンモニアを購入すること、アンモニアの価格がアメリカHenry Hub（ルイジアナ州にある天然ガスの集積地）の天然ガス指標価格で計算すること、契約が2032年まで延長できることである。CF Industries社は2016年末にアイオワ州Port Neal工場にシェールガスを原料として新たにアンモニア生産ラインを完成した。
- \* 7月13日、中国とロシアのUralkali社が2017年の塩化加里輸入基本契約を締結した。数量60万トン、CFR価格230ドル／トン。昨年のCFR価格219ドル／トンより11ドル／トンの値上げである。慣例としてほかの大手加里メーカーも同じ価格で契約することになる。
- \* 7月24日、中国とカナダCanpotex社が2017年塩化加里輸入基本契約を締結した。最大輸入量210万トン、CFR価格230ドル／トンである。
- \* 7月30日、中国とイスラエルICL社も2017年塩化加里輸入基本契約を締結した。契約数量92.5万トン、CFR価格230ドル／トン。

- \* 未確定情報だが、7月末ロシア Uralkali 社がインドとの間に 2017～2018 年度の塩化カリ輸入基本契約を締結した。数量不明、CFR 価格 240 ドル／トンという。
- \* インドは 10 月から Direct Benefit Transfer (DBT, 直接利益移転) システムを稼働する予定である。農家が肥料を購入する際に指紋を登録して、後日に当該システムを使って、購入された肥料の補助金を直接農家の銀行口座に振り込む世界初の試みである。  
DBT システムは 6 月 1 日から開始する予定であったが、肥料小売店に指紋認識設備の設置の遅れ及び 7 月から施行された全国統一の商品とサービス税 (The Good and Services Tax, GST) の関係で、10 月に延期となった。
- \* 7 月 20 日インド MMTC 社が尿素入札を行った。開札の結果、17 社が入札し、応札量 140 万トン。MMTC 社が購入量 44.5 万トンと決定した。そのうちイラン産尿素 20 万トン、カタール産尿素 4 万トン、ほかは中東湾岸産である。最近の尿素市況低迷の影響を受け、最低応札価格はカタール産の FOB190 ドル／トン、イラン産の CFR203.06 ドル／トン (西海岸) と 203.15 ドル／トン (東海岸) 、中東産の CFR208.75 ドル／トンである。
- \* インドの DAP 生産量が大幅に増加したこと、輸入量が激減した。2017～2018 肥料年度の第 1 四半期 (4～6 月) のインド国内 DAP 生産量が昨年同期より 20.7% 増の 134 万トンに達し、新記録である。最大輸入国インドの輸入量減少により、DAP の国際市場価格が緩やかに低下し、7 月中旬現在の FOB 価格が 330～335 ドル／トンまで低下した。
- \* 中国税関の最新通関データによれば、今年 1～6 月の中国化学肥料輸出量が 5.4% 減の 1134.7 万トン、金額では 9.5% 減の 27.11 億ドル。尿素の輸出量が 45.6% 減の 275 万トンしかない。だが、DAP、MAP、硫安と塩安の輸出が増えたため、何とかカバーできた。一方、化学肥料輸入量が 12.2% 増の 477.8 万トン、金額では 11.6% 減の 13.59 億ドル。化成肥料の輸入量が減少したものの、塩化カリの輸入量が大幅に増えた。
- \* インド NFL 社は 10 万トン DAP の入札を行い、Ameropa 社と Fertrade 社が中国産 DAP の FOB336 ドル／トンで落札した。また、パキスタン Faji 社も中国から CFR350 ～352 ドル／トンで 4.5 万トン DAP を購入し、8 月出港の予定。

## 大手各社の営業業績

- \* ロシアの Acron 社は 2017 年上半期の業績を公表した。化学肥料生産量が 29.1% 増の 314.4 万トン、その内訳はアンモニアが 32% 増の 130 万トン、尿素が 19% 増の 44 万トン、硝安が 15.2% 増の 99 万トン、化成肥料が 17.8% 増の 110 万トン、BB 肥料が 11 倍増の 28.5 万トン。化学肥料生産量が大幅に増加した理由は 2016 年下期に Veliky Novgorod 市に新たにアンモニアと尿素工場が完成することである。但し、りん鉱石は Oleniy Ruchey りん鉱山の不調でりん精鉱の生産量が 6.8% 減の 54.4 万トンにとどまった。
- \* 7 月 18 日、ノルウェー Yara 社が第 2 四半期の業績を公表した。窒素肥料の市況低迷と原料天然ガスの価格高騰を受け、純利益が 76.7% 減の 8550 万ドルしかない。
- \* アメリカ LSB 社が第 2 四半期の業績を公表した。アンモニア販売量が 34% 減の 1.1 万トン、硝安販売量が 20% 増の 9.5 万トン、尿素硝安液肥販売量が 2% 減の 10.7 万万トン。売上高が 11.8% 増の 1.23 億ドル、利益が赤字の 703 万ドル。
- \* カナダ PotashCorp 社は第 2 四半期の業績を発表した。主力肥料の出荷が順調であるうえ、塩化カリ出荷価格も上がったため、純利益が 66% 増の 2 億 1000 万ドルに達した。その内訳は、塩化カリ出荷量が 14.3% 増の 240 万トン、平均出荷価格が昨年同期より 20 ドル高い 174 ドル／トン、窒素肥料出荷量が 6% 増の 160 万トン、平均出荷価格が昨年同期より 21 ドル安い 223 ドル／トン、りん酸系肥料出荷量が 20% 増の 60 万トン、平均出荷価格が昨年同期より 68 ドル安い 407 ドル／トン。これにより、1～6 月の塩化カリ出荷量 450 万トン、窒素肥料出荷量 320 万トン、りん酸系肥料出荷量 120 万トン、純利益 3.5 億ドルに回復した。
- \* 7 月 30 日、ヨルダン APC 社が 1～6 月の業績を発表した。塩化カリ生産量 110 万トン、販売量が 47% 増の 120 万トン、純利益が 49% 増の 6040 万ドル。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* ウクライナの Ostchem 社はロシアの天然ガス供給が再開されることを受け、ウクライナ西部にある Cherkasky 工場を再開した。当該工場の生産能力は尿素 89 万トン、硝安 97 万トン、尿素硝安液肥 (UAN) 50 万トンである。また、Ostchem 社は Rovno 工場と Severodonetsk 工場も再開させる予定である。この 2 工場が 2014 年起きたウクライナとロシアの紛争で、天然ガスの供給を途切れ、生産停止となっていた。Rovno 工場の生産能力は硝安 54 万トン、硝酸カルシウム 47 万トン、Severodonetsk 工場の生産能力は尿素 39 万トン、硝安 55 万トン。

- \* アメリカ Koch 社がオクラホマ州 Enid に建設している尿素工場が完成し、予定通りに 8 月末から稼働する。当該工場は 2014 年 10 月着工、総投資額 13 億ドル、大粒尿素の生産能力 90 万トンである。
- \* オーストラリアとイギリスの BHP Biliton 社はカナダに建設中の Jansen 加里鉱山の進捗状況を発表した。豊坑と精製工場がすでに約 70% 完成し、豊坑が予定通りに 2018~2019 年完成する。但し 2018~2019 年塩化加里市況が改善されない場合は、2020 年稼働させる予定を 2023 年に延期させる可能性がある。Jansen 加里鉱山の生産能力が塩化加里 800 万トン／年、総投資額 47 億ドル、最初の計画では 2017 年に完成する予定であるが、塩化加里の国際市況が不振であるため、2020 年に延期させた。
- \* 7 月 11 日、イスラエル ICL 社はスペインカタルーニャ州 Sallent 加里鉱山の継続採掘申請が許可されたと発表した。ICL の Sallent 加里鉱山採掘権が 2017 年末までに終了するが、採掘権の延長を申請した結果、カタルーニャ州最高裁から 2018 年末まで延長されることが許可された。
- \* カナダ PotashCorp 社は開発中の Scissors Creek 鉱山が完成し、8 月から稼働すると発表した。当該鉱山は既存の Rocanville 鉱山の近くにあり、塩化加里生産能力 270 万トン、2015 年完成する予定であったが、事情により完成が遅れた。当該鉱山の完成により、Rocanville 鉱山と合わせて Rocanville 地域の塩化加里生産能力が最大 650 万トンに達するという。

## その他

- \* 6 月 30 日、イスラエル ICL 社は Rotem 工場の石膏堆積池の堤防が崩壊し、一部の石膏スラリーが流出したことを発表した。7 月 1 日、イスラエル環境保護省は ICL 社に対して、Rotem 工場の 3 つの石膏堆積池の使用を停止するよう指示した。これにより Rotem 工場のりん酸生産が完全に停止した。
- \* 6 月 30 日、ベトナム国営化学化工公司 (Vinachem) は業績不振で、政府に対して債務の凍結と資金援助を要請した。その業績不振の最大な要因は所有の NinhBinh 省にある尿素工場が大きな赤字を出しているためである。この尿素工場は 2005 年ベトナム化学化工公司が中国輸出輸入銀行から 2.5 億ドルを借金して中国企業に建設され、生産能力 56 万トン尿素、2012 年完成した。しかし、時代遅れの生産設備と合成技術及び石炭を原料とすることが災いして、完成後一度も黒字を計上したことがない。4 年間の累積赤字が 8,929 万ドル、2016 年末に生産停止した。本件の影響で、ベトナム政府は 2017~

2019年ベトナム化学化工公司株式の49%を民間に販売する計画を大幅に先延ばすことになる。

- \* インドは7月1日から全国で統一の商品とサービス税 (The Good and Services Tax, GST) を実施することになった。インドは連邦国家であるため、今まで商品とサービスに関して各州が独自の消費税をかけていた。課税対象と税率が異なるため、国内の商品移動やサービスの提供に混乱を生じることが多い。インド政府は商品とサービスについて5%、12%、18%と28%の4段階税率を設け、2017年3月に連邦議会下院で可決した。

化学肥料については今まで徴収していなかった商品とサービス税が5%の税率が適用される。化学肥料の値上げが確実となり、使用量が減る可能性が高い。

- \* ロシアの EuroChem 社はスペインの液肥専業メーカー Hispalense de Liquidos 社の一部の株式を買収した。Hispalense de Liquidos 社はセビリア市にあり、尿素硝安液肥 (UAN) 、液体複合肥料を製造販売して、年間液体肥料の生産能力5万トンである。EuroChem 社は買収を通じて、自社製の尿素硝安液肥 (UAN) の販売拡大を目指している。
- \* 7月13日、モロッコ OCP 社は南アフリカで行っているりん鉱石輸送船の差し押さえに関する裁判に出席せず、関与しない方針が公表した。4月南アフリカ政府は西サハラの分離独立組織 Frente Polisario の要求を受け、ケープダウン港で OCP 産のりん鉱石約5万トンを載せた NM Cherry Blossom 号を差し押さえた。OCP 社は南アフリカ政府と裁判所が政治的な理由で、国際法を無視し、りん鉱石輸送船を拘束したことは国連ルールを違反する不法行為であり、国際貿易の自由と安全を妨害し、その法的効力を一切認めない声明を発表した。

同じことはパナマにも発生した。6月、Frente Polisario は西サハラ産りん鉱石を載せている船がパナマ運河を通す際に差し押さえる請求をパナマ政府に提出したが、パナマ最高裁判所はその請求を認めず、却下した。